

建設局

一般会計要求総額

56,651,524千円
(対前年度 +2.0%)

< 要求の基本的考え方 >

LED街路灯の設置や歩道のバリアフリー化といった、新たな行政需要への対応を実施・強化する。

「整備」から「維持」へのシフトを図るとともに、普通建設事業費の確保も目指す。

(単位：千円)

	一主要事業一	要求額
市民の主体的な地域づくりの支援	地域と創る冬みち事業	77,100〔管理部〕
障がい者の自立支援の促進	誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業	1,645,000〔土木部〕
水とみどりの保全・育成と創出	創成川親水緑地整備事業	104,000〔土木部〕
	多自然川づくりの推進	69,000〔下水道河川部〕
災害に強い安全なまちの整備	災害に強い道づくり事業(橋りょうの耐震化)	1,252,000〔土木部〕
将来を見据えた魅力ある都市の整備	札幌駅前通地下歩行空間整備事業	5,255,000〔土木部〕
	交通結節点改善事業(JR白石駅周辺地区)	1,270,000〔土木部〕
その他	LED街路灯設置事業	400,000〔管理部〕

：新規事業 ：バリエーション事業

● バリアフリー重点整備地区を拡大

誰もが歩きやすい歩行空間ネットワーク創出事業

誰もが安心して歩けるよう、重点整備地区における歩道のバリアフリー化を進めるとともに、新たに3地区の「あんしん歩行エリア(*)」を形成するなど、安全で歩きやすい歩行空間を創出します。



事業費 1,645,000 (21年度予算額 1,041,000)

主要内容：歩道のバリアフリー整備を実施する。

達成目標

《重点整備地区バリアフリー化率》

22年度

21年度に策定された「新・札幌市交通バリアフリー基本構想」における、重点整備地区53地区について、新たな目標値を設定する。

《あんしん歩行エリアの形成数》

H18 9エリア H22 12エリア

22年度 エリア拡大に向け検討中

*あんしん歩行エリア

市街地内で交通事故の発生が多い地区を対象に、歩行者や自転車などが安心して通行できるように、地域主体で道路整備や交通安全活動などを重点的に行うエリア。

● Let's Eco Design

LED街路灯設置事業

札幌市が管理する街路灯のうち、80Wクラスの水銀灯を、省エネ性能の高いLED街路灯に交換し、環境負荷の低減及び維持管理費の低減を図ります。

事業費 400,000 (新規)

主な内容：市内の生活道路照明用水銀灯のうち、80Wクラスの水銀灯 12,000 灯を対象として、LED街路灯に交換する。

事業年度は、H22～H25 の4年間で実施する
(各年度3,000灯ずつ交換)

● 交通アクセス性の向上

交通結節点改善事業 (JR白石駅周辺地区)

JR白石駅周辺において、鉄道により分断されている市街地の一体化や、交通結節点へのアクセスの向上、公共交通機関の乗り継ぎ利便性の向上を図るため、自由通路、駅前広場などの整備を実施します。

事業費 1,270,000(21年度予算額 842,000)

主な内容：自由通路の整備(20年度より継続)

達成目標

《JR白石駅自由通路の整備》

H22 供用開始

● 市民自治の実践による雪対策の推進

地域と創る冬みち事業

地域住民・除雪事業者・行政の三者による話し合いにより、地域の実情に応じた除排雪等を行い、市民の理解や満足度を高めます。

事業費 77,100(21年度予算額 72,000)

達成目標

《参加町内会数》

H18 H22 総数 560 町内会

22年度実施予定数 80 町内会



● 橋りょうの耐震機能の強化

災害に強い道づくり事業 (橋りょうの耐震化)

大規模な災害時に救急・消火および緊急物資の輸送などの重要な役割を担う緊急輸送路の機能を確保するため、橋りょうの耐震補強を行います。

事業費 1,252,000(21年度予算額 817,000)

達成目標

《耐震補強実施済橋りょう数(累計)》

H18 26橋 H22 45橋

22年度効果 +5橋

● 都心の魅力と活力の向上

札幌駅前通地下歩行空間整備事業

事業費 5,255,000(21年度予算額 2,182,000)

主な内容：四季を通じて安全で快適な歩行空間を確保し、都心全体の魅力と活力を向上させるため、地下鉄「さっぽろ駅」と「大通駅」を連結する地下歩行空間の整備を引き続き実施します。22年度は、地下通路本体の建築・設備工、及び地上部の歩道工事をを行います。

達成目標

《地下歩行空間(地下歩道)の整備》

H22 供用開始

● 自然環境や景観に配慮した川づくりの推進

多自然川づくりの推進

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境および多様な河川景観を保全創出する川づくりを行います。

事業費 69,000(21年度予算額 156,000)

主な内訳：河川整備費 69,000

達成目標

《多自然川づくり整備延長》

H18 4.7km H22 5.5km

22年度効果 +0.1km

< 主な見直し項目(効果額) >

事業成果の検証による見直し

- 夏期道路清掃費 32,000
一部清掃エリアで清掃頻度の見直しを試験的に実施

その他の見直し

- 一般事務費の削減 41,066
- 施設運営管理費、サービス水準等の見直し 7,363

行政が担う範囲の見直し

- 大谷地バスターミナル事業の廃止
効果的・効率的な事務事業の実施のため、民間移譲を実施